

Radixの会総会1部講演録

## 『Radixの会はどこまで来たか』

らでいっしゅぼーや(株)商品部長 後藤 和明

### Radix

#### ■皆さんが自らで

Radixとは物事の根源という意味で、Radixの会として96年に設立・発足され7年目に入っています。らでいっしゅぼーやだけで流通を完結させることもできましたが、様々な社会変革の中、生産者・メーカーが自らの手で品質を向上させるとか、いろいろなやり取りをしていってもらいたいという切なる思いでずっとやってきました。

しかし、言い出しっぺというのは元気がいいのですが、そこに付いてくる方々は、どちらかという「やらされた」感じ。そういう意味でこの7年間は、らでいっしゅぼーやが中心にRadixの会を引っ張ってきたと思います。今回の1つの話は、これからはやはりRadixの会の生産者・メーカーが自らの手で年間約6000万ある資金をどう使うか、煮るも焼くもやはり皆さんだということ。今日わかっていただければと思います。

#### ■半歩先の積み重ね

らでいっしゅぼーやも15年目に入りますが、らでいっしゅぼーやで何が良かったのかなと僕も常々思います。「元気がおしゃれ」とかいろんな言葉を伝えてきましたけれども、やはり時代の一歩ではなく、半歩先にいってやっていこうというような

様々な取り組みをしてきました。その中で食の一つの転換期となったのが、忘れもしない1988年、無農薬の安全なものを食べようということをもっと手軽にわかりやすく参加してもらえんというので、初めは500世帯から野菜ボックスを始めました。

#### 【契約栽培】

契約栽培というのは非常に簡単です。15年してこれだけは確信を持っていますが、やはり注文制では契約栽培は成立しないと実感しております。セットボックスでは、今6万5000世帯の会員がいると6万5000本のダイコンが約束でき、6万5000個のキャベツが約束できるということで、やはり契約の原点なのです。らでいっしゅぼーやは、顔の見える関係ということで、生産者と流通を伝えてきました。10年前にはよく、らでいっしゅぼーやのスタッフは全然ものを知らないと言われてました。正直、そのとおりでした。やはり無農薬の畑がどうなっているのか、手作りの味噌、醤油がどうなっているのかわからないまま来た中で、いろんな活動に参画しました。

#### 【数々の運動】

ご存じのように「森は海の恋人」というキャッチコピーで、岩手のカ

キの養殖をしている

人たちが、カキが採れない、おかしいな、ということで、これは森からの腐葉土から来るものがないとカキ、魚は育たないということで、漁師が山に行って植林をするなど、そういうような活動を北海道からいろんな地域にまたがってやってきました。「DEVANDA」第一次産業の出番だということで行ないました。当然生産者・メーカーだけではなくて消費者を巻き込み、やっぱり国産だと、顔の見える関係はどう考えてもふるさとのある九州であり、北海道だということで、田舎がなくなったらおしまいですからね。

#### 【食べる人との交流】

得意の産地交流では三浦半島の石渡さんはじめ年間50本近い交流会をやっています。2年前の9月には、皆さん応援に来られた方も大変だったかと思いますが、2日間に渡って1万6500名の人たちを呼んで「元気市」等々をやっていました。

また、結構生産者・メーカーでご存じのない方もいらっしゃるかと思います。らでいっしゅぼーやのセットボックスは食べこなすのがなかなか大変なのです。 [次ページへ続く](#)



Radix

時代の《半歩先》をいく取りくみ



1988年無・低農薬野菜の宅配らでいっしゅぼーや「新たな食の事業」スタート「宅配」による「誰でも参加できる」仕組み

森と海と大地のDEVANDA運動



顔の見える関係

元気市



顔の見える関係